

出張報告届

令和7年 11月 28日

吹田市議会議長様

会派名 参政党
代表者氏名 久保直子
出張者氏名 久保直子

下記のとおり出張したので届け出ます。

記



出張先	伊那市立伊那小学校(長野県伊那市山寺3221番)
期間	令和7年 11月 13日 から 11月 14日 まで 2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	当日の出発では令和7年11月14日午前9時45分の開始に間に合わないため、前泊します。



長野県伊那市伊那小学校視察報告書

令和7年11月14日（金） 参政党 久保直子

1、初めに

なぜ伊那小学校を視察先にしたのか・・・

・通信簿のない学校として、ヤギやポニーを飼育し探求学習に力を入れている学校として有名な伊那小学校の取り組みを本市に活かすためです。

2、感動した事

○子供の目がイキイキしていたこと

・例えば、2年生3クラスでは、ポニー、羊、昆虫を「材」（教材の「材」）として、子供達と共に育っていました。ポニーの小屋をどの様にするか等も子供達が話し合って決めます。そして、金づちやのこぎりを使って、試行錯誤をしながら子供達が小屋を作るのです。一般に「危ないから使わせない」「指導者を呼んで、受動的に方法を学ぶ」という事が多い中、「失敗しながら学ぶ」という環境を作っている事に感動しました。「失敗しても挑戦しようとする子供の姿勢」はこういった実践からこそ生まれると思います。

・動物を飼育するという事は、「命を預かる責任」「情緒を育む心の豊かさ」等の良い面もある一方で、「学校の負担」「動物アレルギーへの対応の難しさ」「動物は危険・けがをする」という困難さもあります。しかし、伊那小学校では、このような取り組み実績50年以上の伝統があることから、悲観的な保護者の声よりも強い教育方針を貫けるという事を感じました。

また、3年間クラス替えをせず、担任も持ち上がる体制が、動物を長期的ではあるけれど、期間限定で飼育する事への覚悟と決意に繋がっていると思いました。色んな子が在籍するため、動物が嫌がる事をする（ちょっかいをかける）子もいるようです。そういった時も、動物の関わり方で、わが身を振り返る事ができるようです。実践的な学びができて素晴らしいと思います。

○通信簿がない意味

・それは、「理念」があるからです。理念は「はじめに子どもありき」です。

・子供の具体的な成長・日々の努力に目を向けず、結果だけに囚われがちであるためだそうです。通信簿では、子供の長所・欠点・学習のつまづきとその原因を知ることはできないと

いう理由から、懇談を重視して、保護者と子供の成長を共有している様です。

○教育移住する家庭の多さ

・教育移住とは、教育を受ける為に、わざわざ移住してくることを言います。年間30～40の親子が移住してくるようです。前在籍校では不登校になった児童が、「ここなら通えるかもしれない」という思いで来られるようです。そして、その成果があがっている事に私は感銘を受けました。

○学校教育の一環としてお金の教育

・生きていくうえで切り離せないお金。しかし、私達日本人は、金融教育をきちんと受けずに社会に出ています。伊那小学校では、取り組みの為に必要なお金を自分たちで生み出します。各クラス毎にコンテナがあり、そこにはアルミニウム缶を児童が家庭から持ち込んでいました。また、発表会をしてお金を寄付してもらったりと、目標金額の為に知恵を出し合い募っていました。このように貴重な経験ができるのも、管理職や保護者、地域の理解と協力あってこそだと思います。

○教師の覚悟

・動物をクラスで飼育するという事は、休み返上でお世話をする覚悟が、先生にあるということです。休日は、例えば8時～9時と決めて、子供達にも開放している様です。「登下校時・校内で、けがや事故があったらどうするんだ」という声が聞こえてきそうですが、そこもクリアして子供の高い教育効果の為に実践できるという環境は羨ましく感じました。また、生半可な気持ちで引き受けられない先生の姿勢は、教育者の鏡です。昨今は、覚悟のある教師が減少し、3年という期間続けることが困難になっているケースもあるようです。本音の部分も話してくださり、細かい事情も垣間見ることができ有意義でした。

○管理職の先生方の熱意

・令和7年度は、給食の時間とお昼休みを前年度までの60分から80分へと延長したとの事です。これは、先生も子供達もゆとりをもって過ごすために、とても大切な時間を作られたと思います。「食べる」ということが、時間がない中では作業になっている学校は多い中、「感謝」という最も大切な時間となる事でしょう。学校は、西洋からきた「時間を細かく切り刻む」という考えの元、時間割編成がされていると思います。この「時間」という概念一つ、日本人の本来の捉え方を取り戻すだけでも、学校は大きく変わるのではないかと私も以前から考えていました。管理職の先生方は「次年度は、時程を変え、先生が同僚と相談でき、職務に専念できる時間をさらに捻出したい」と仰られていました。伊那小学校の管理職の先生方は、元伊那小学校の教員でした。だから伊那小学校の教育の本質が分かるのでしよう。

3、終わりに

公立小学校の学校教育改革は、伊那小学校の様に、特色ある学校づくりがカギではないかと考えています。学校長が、熱意と覚悟を持ってのびのびと実践できる環境づくりを、本市の教育委員会には担って頂きたいと思います。その思いを込めて、11月定例会の個人質問では、「教師の働き甲斐」「教師の働きやすさ」について質問致します。

今後も、子供達の学校生活の為、しっかりと学び、啓発して参ります。